聞け万国の労働者ア――
熱狂した群集の拍手が沿道をとゞろかして、
一斉に起った。
「ワアーッ！」
と群集が叫ぶと、「列」が応じた。
「万歳アーイ!!」

「オルグ」

多喜二、若竹町の自宅にて　昭和4(1929)年

北海道第一回メーデー　大正15(1926)年

「リアルに散策 小林多喜二」

市内中心部を徒歩でめぐる文学散歩

日時：6月7日（日）＊悪天候の場合、14日（日）に順延
14時～15時半
13時40分文学館1F
ミーティングルーム集合
解説：小笠原寛行氏
定員：20名（申込順）　参加無料

【申し込み方法】5月1日（金）より
電話受付 0134-32-2388 文学館

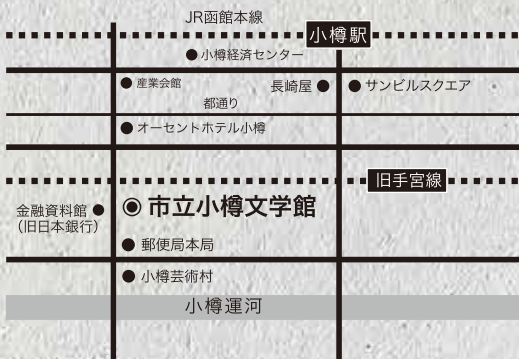
公式ホームページ　公式X

小林多喜二（明治36・1903年～昭和8・1933年）が小樽に住んだのは、明治40（1907）年から昭和5（1930）年までの23年間。短い生涯のほぼ8割をこの地で過ごしました。豊多摩刑務所に投獄されていた時に村山籌子に宛てた手紙にも「ぼくは何処を歩いていようが　どの人をも知っている　赤い断層を処々に見せている階段のように山にせり上っている街をぼくはどんなに愛しているか分らない」と故郷・小樽への思いを記しています。今回の展示では、多喜二が小樽を描いた代表作「工場細胞」「転形期の人々」の他、青少年期に書いた習作、短編、そこにさらに小樽の友人たちが語り記した回想エピソードも加味して、多喜二ゆかりのスポットを紹介してゆきたいと思います。展示を見終わり外に出た時、あなたの目の前には、これまでとは違った小樽がきっと開けてくるはずです。

多喜二一家が暮らした若竹町11番地の家　小林三星堂支店

2026年 4月1日（水）▶6月21日（日）

休 館 日：毎週月曜日（5/4を除く）、4/30（木）・5/7（木）・8（金）・12（火）・13（水）
開館時間：9時30分～17時（最終入館16時30分）
入 館 料：一般300(240)円　高校生・市内70歳以上150(120)円　障がい者・中学生以下無料
＊(　　)内は20名以上の団体料金



市立小樽文学館
〒047-0031
小樽市色内1-9-5　tel.fax.0134-32-2388